



創刊にあたって

社長 船橋 章

今日の内外の技術ことにエレクトロニクス分野においては進展ますます著しく、技術革新の波がうねり続けております。このたび 新製品及び技術開発の成果を紹介する場として、富士通テン技報を発刊することといたしました。

当社が自動車エレクトロニクスのメーカーとして 富士通㈱ラジオ部を中核に創立されて以来、本年10月25日をもって満11年を迎えました。また、当社の前身 神戸工業(株)がトヨタ自動車(株)殿クラウン用オートラジオの試作に着手した昭和28年から星霜ここに30年を経ました。近年 自動車及び関連部品産業をとりまく環境は誠に厳しくユーザーニーズはますます多様化してまいりました。当社はユーザーに本当に喜ばれる商品——機能・性能等も含めた 広い意味での品質に於いても価格競争力に於いても 魅力を持つ商品——の開発と 品質保証活動の充実による企業の活性化、事業の発展をめざして、只今全社的品質管理(TQC)活動を推進しております。

今後、自動車におけるエレクトロニクス化のウエイトがさらに高まりますなかで 当社はカーオーディオ(オートラジオ、カーステレオ等)、モーターロニクス(自動車電子制御)、カーコミュニケーションの3本柱をもつカーエレクトロニクスメーカーとして 時代に先駆する技術と 信頼性ある製品開発に努めると共に その成果をこの富士通テン技報に発表して 広くご批判を仰ぎ 各位のご教示を賜りたく、宜しくご指導をお願い申し上げる次第であります。

技報による発表の技術蓄積が、更に将来高く広い範囲の開発へと進み、ユーザーに喜ばれる卓越した新製品が生み出され、本誌が一層価値づけられるよう担当技術者の研鑽と奮起を望むと共に 各位の一層のご指導とご鞭撻をお願い申し上げる次第でございます。